

## 平成 25 年度第 5 回常務理事会議事録

通信会議 平成 26 年 1 月 10 日～16 日

集会会議

日 時： 平成 26 年 1 月 17 日（金） 15 : 00～17 : 20

会 場： ステーションコンファランス東京 503CD

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岩下 光利、平松 祐司

常務理事：青木 大輔、苛原 稔、加藤 聖子、吉川 史隆、木村 正、藤井 知行、峯岸 敬、  
八重樫 伸生、吉川 裕之

監 事：落合 和徳、嘉村 敏治、吉村 泰典

第 68 回学術集会長：井坂 恵一

特任理事：種部 恭子、南 佐和子、宮城 悦子

理事会内委員会委員長：片渕 秀隆、工藤 美樹、久保田 俊郎、竹下 俊行、竹田 省、  
水沼 英樹、水上 尚典

幹事長：澤 倫太郎

副幹事長：阪埜 浩司

幹 事：上田 豊、梶山 広明、加藤 育民、岸 裕司、北澤 正文、桑原 章、榊原 秀也、  
佐藤 豊実、下平 和久、関根 正幸、高倉 聡、多賀谷 光、永瀬 智、西 洋孝、  
西ヶ谷 順子、増山 寿、矢幡 秀昭、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

小西 郁生理事長から平成 26 年 1 月 9 日付各役員、学術集会長、議長団、幹事団、委員長宛に、平成 25 年度第 5 回常務理事会を、1 月 10 日から 1 月 16 日までを期間として一部通信にて行う旨の通知、通信会議次第（協議事項、報告事項）および関連資料が送付された。予定通り 1 月 10 日に通信会議が開始され、理事長、副理事長、常務理事の総数 12 名全員が参加した。

通信会議にて 1 月 9 日までの協議事項への意見及び報告事項の承認を受けた後、1 月 17 日に集会会議を開催した。15 : 00 に理事長、副理事長、常務理事の総数 12 名のうち全員が出席し定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

### I. 平成 25 年度第 4 回常務理事会議事録（案）の確認 原案通り、承認した。

### II. 業務担当常務理事報告

#### 1) 総 務（岩下光利副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①矢花秀文功労会員（東京）が 10 月 16 日にご逝去された。（東京地方学会より 12 月 26 日報告受領）

②玉舎輝彦名誉会員(岐阜)が12月22日にご逝去された。(弔電、供花手配、香典は固辞)

(2) 産科医療補償制度の対象拡大について、「妊娠31週以上かつ出生体重1,400g以上を補償対象とすることの妥当性に関する医学的臨床的説明」を厚生労働省医政局長宛に日本産婦人科医会を始め本会を含む5団体連名で、日本医療機能評価機構参加医療補償制度運営委員長宛に7団体連名で提出した。 [資料：総務1]

(3) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①低用量ピルの副作用による死亡例についての報道があったことを受けて、「低用量ピルの副作用について心配しておられる女性へ」を、生殖・内分泌委員会と女性ヘルスケア委員会共同で作成し本会ホームページに掲載した。 [資料：総務2]

**種部恭子特任理事**「血栓症に関する新聞・Yahoo News・NHK報道後、未だOC/LEP服用女性から説明を求められることが多い状況である。逆に血栓症の説明や対応が十分なされずに漫然と処方されている例も見受けられる。日本人におけるStudyの結果を待つところではあるが、説明に必要なEBMや動脈・静脈血栓症への具体的な対応について、会員向けにアナウンスするか、ガイドラインの改定が必要ではないかと考える。」

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①日本婦人科腫瘍学会から、改訂コルポスコピースタンダードアトラス2014への後援名義使用許可依頼を受領したのでこれを了承した。 [資料：総務3]

②厚生労働省予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会が12月25日に開催された。HPVワクチン接種勧奨についての結論は持ち越され、その結果、接種差し控えは延長されることとなった。これについて本会は、関係4団体と共同で声明を出した。 [資料：総務4]

その後子宮頸がん制圧をめざす専門家会議から、本会、日本産婦人科医会、日本婦人科腫瘍学会に対して、次回の副反応検討部会開催後に4団体共同での「メディアセミナー」の開催提案があり、本会もこれを応諾した。 [資料：総務4-1]

(ハ) 周産期委員会

①日本周産期・新生児医学会から、CRS診療マニュアルのリバイズおよびリバイズした学会名の公表について確認を求められたが、これを了承した。 [資料：総務5]

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン2012頒布状況について

1月7日現在、入金済7,286冊、校費支払のため後払希望13冊。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 内閣府

①新公益法人制度改革の移行期間は11月末に満了となったが、それにあたり内閣府は大臣メッセージを発表した。 [資料：総務6]

②内閣府男女共同参画局より、大臣官房公益法人行政担当室を通して「公益社団法人及び公益

財団法人における政策・方針決定過程への女性の参画の拡大について」の周知依頼を受領した。  
[資料：総務6-1]

## (2) 厚生労働省

①同省雇用均等・児童家庭局母子保健課長から、「子ども・子育て関連法における妊婦健診の位置付け」についての説明があった。妊婦検診の公費助成に関して検査項目等内容は変わらないが、大臣告示に格上げして通知する予定であり、12月26日の厚生労働省部会での告示案提示前に学会に対して説明があったものである。[資料：総務7]

②同省医政局医事課から、医道審議会医師分科会医師臨床研修部会報告書を受領した。  
[資料：総務8]

**平松祐司副理事長**「産婦人科を含む7科目研修の復活を望んでいる声もあるようなので、本会も粘り強く、産婦人科を必修にする努力を続けるべきであると思う。」

③同省雇用均等・児童家庭局母子保健課および医政局研究開発振興課から、再生医療新法の施行について小西郁生理事長、岩下光利副理事長、苛原稔倫理委員長に1月17日に説明予定である。

## (3) 福島県

福島県立医科大学、福島県産婦人科医会および福島県産科婦人科学会連名にて「福島県の妊産婦に対する平成25年度県民健康管理調査 妊産婦に関する調査の実施にあたっての御協力依頼」を受領した。本会の会員専用ページに掲載して周知した。 [資料：総務9]

## 〔Ⅲ. 関連団体〕

### (1) 日本医学会

①中国企業が新型出生前遺伝学的検査を行っていることが報道された件を受けて、日本医学会は「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査に関する最近の報道について」の声明を出し、遺憾の意を表明した。[資料：総務10-1]

本会もNIPTに関する指針を遵守するように求めた理事長コメントをホームページに掲載して会員へ周知した。[資料：総務10-2]

これを受けて、当該中国企業から「ガイドラインを遵守して事業展開を行っていく」旨の本会宛メールを受領した。[資料：総務10-3]

日本医師会も「検査実施企業や医療機関は、本会指針を遵守し、5団体共同声明を尊重すべきである」との見解を発信した。[資料：総務10-4]

②日本医学会評議員会が2月19日に開催される。岩下光利副理事長が出席予定である。

③厚生労働省医政局総務課から、日本医学会を通して「良質な医療の提供に資する情報基盤の整備」事業に関する周知依頼があった。[資料：総務11]

④厚生労働省医薬食品局安全対策課から、日本医学会を通して「医療機器の不具合等報告の症例の公表及び活用について」の周知依頼があった。機関誌に掲載して会員に周知したい。  
[資料：総務12]

(2) 日本医療機能評価機構

同機構が2月1日に開催する「第12回EBM研究フォーラム」の案内を受領した。[資料：総務13]

(3) 日本看護協会

11月9日に開催された「助産ビジョン（案）」に関する有識者ヒアリングの議事録を受領した。  
[資料：総務14]

〔IV. その他〕

(1) 毎日新聞主催の「未来ビジョンフォーラム」（2014年2月8日、大阪ヒルトンホテル）への後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾した。[資料：総務15]

(2) 京都大学婦人科学産科学教室と AdMedica Global, Inc（フィリピン）主催の「日本・フィリピン交流一産婦人科生涯研修プログラム」（2014年1月26～27日、6月26～27日、京都大学芝蘭会館）への後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾した。

(3) バイエル薬品株式会社より、ヤーズ配合錠による血栓塞栓症で3例目の死亡例が出たことで、医療施設宛に「安全性速報」を配布し、PMDAのホームページに掲載されるとの連絡があった。  
[資料：総務16]

2) 会 計（吉川史隆理事）

(1) 2月7日に会計担当理事会を開催し、平成26年度予算案を検討する。

3) 学 術（峯岸敬理事）

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①第4回学術委員会、第4回学術担当理事会を2月21日に開催する。

(ロ) 優秀論文賞応募状況

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第66回学術講演会プログラム委員会

(ロ) 第67回学術講演会プログラム委員会

①シンポジウム演者選考委員会、特別講演演者選考委員会を2月20日に開催する。

(ハ) 第68回学術講演会プログラム委員会

4) 編 集（藤井知行理事）

(1) 会議開催

①1月17日に和文誌編集会議ならびに JOGR 編集会議を開催する。

②2月21日に編集担当理事会を開催する予定である。

(2) 英文機関誌 (JOCR) 投稿状況 : 2013 年投稿分 (12 月末現在)

Accept	203 編
Reject	634 編
Withdrawn/Unsubmitted	191 編
Under Revision	43 編
Under Review	130 編
Pending	0 編
Expired	12 編
投稿数	1, 213 編

(3) 学術講演会抄録掲載号(2月号)頒布について

製薬会社等よりまとめた部数の購入希望が寄せられる場合があるので1月17日日文誌編集会議において検討を行った。

## 5) 渉外 (木村正理事)

(1) 会議開催

2月21日に第3回渉外会議を開催の予定である。

[FIGO 関係]

(1) FIGO World Congress 2021 の開催国立候補受付が始まった。[資料 : 渉外 1]

**木村正理事** 「3月31日までに立候補書類を提出する予定である。」

[AOFOG 関係]

(1) 5月3~5日にAOFOG council meeting がミャンマーのヤンゴンで開催される。藤井知行編集担当常務理事、木村正渉外担当常務理事、および落合和徳 Oncology Committee Chair、古山将康 Urogynaecology Committee Chair が出席予定である。

(2) フィリピンの被災支援に関わる義損金について

多くの会員の協力により合計で4,602,740円集まり、1月17日にAOFOGに送金した。義損金への協力のお礼をホームページに掲載した。[資料 : 渉外 2]

**藤井知行理事** 「フィリピン産科婦人科学会に今までに届いた被災支援義損金は、全部で370万円ほどであり、本会会員からの義損金は、それを上回る金額となっている。」

## 6) 社 保 (青木大輔理事)

(1) 会議開催

1月17日、常務理事会後に第4回社保委員会を開催予定である。

(2) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の要望募集について、カツマキソマブに関する要望を厚生労働省に提出した。

(3) 日本医師会治験促進センターによる「臨床研究・治験推進研究事業における治験候補薬及び治験候補機器の推薦依頼」を受領し、本会会員専用ホームページに掲載し会員からの推薦を募った。

(4) 埼玉医科大学 藤原恵一先生から、先進医療未承認薬剤（ベバシズマブ、パクリタキセル）について、本会から推薦してほしいとの内容の依頼を受領した。[資料：社保1]  
**青木大輔理事**「提出書類を再確認したうえで、一施設の案件であればお認めする方向で考えたい。」

## 7) 専門医制度（吉川裕之理事）

(1) 会議開催

第4回中央委員会を1月18日に開催する予定である。

(2) 日本外科学会および日本内科学会から、日本専門医制評価・認定機構加盟学会意見交換会を1月21日に開催したいとの提案があり、本会から小西郁生理事長、吉川裕之中央専門医制度委員会委員長が出席することになった。[資料：専門医1]

(3) 小西郁生理事長、吉川裕之中央専門医制度委員会委員長が、1月14日に日本専門医制評価・認定機構組織委員会 総合診療専門医に関する委員会 吉村博邦委員長と面談した。

**吉川裕之理事**「総合診療専門医に他の専門医とのダブルライセンスを認める場合は本会も対象としてほしいこと、総合診療専門医の研修においては産婦人科を必修にしてほしいこと、を申し入れた。」

(4) 日本専門医制評価・認定機構から、1月27日に「専門医制度整備指針」の説明会を基本領域18学会に対して行う旨の通知があり、西井修中央専門医制度委員会副委員長が出席の予定である。  
[資料：専門医2]

(5) 日本超音波医学会から、本会の研修施設の指定要件に年間剖検数を含んでいるかについての質問があり、「含んでいない」旨を回答した。[資料：専門医3]

(6) 日本医学会臨床部会運営委員会から、各分科会の診療領域でのがん治療の専門性をどう考えているかのアンケートがあり、吉川裕之中央専門医制度委員会委員長から回答した。[資料：専門医4]

## 8) 倫理委員会（苛原稔委員長）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成25年12月31日）

① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：52 研究

② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：583 施設

③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：583 施設

④ 顕微授精に関する登録：526 施設

⑤非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

1月6日現在申請369例〔承認308例、非承認4例、審査対象外23例、取り下げ2例、照会13例、審査中19例〕（承認308例のうち8例は条件付）

(3) 「医学的適応による未受精卵および卵巣組織の採取・凍結・保存に関する見解」について  
学会雑誌1月号ならびにこの会員専用ホームページにおいて、2月2日を期限に会員からのご意見を募集中である。

(4) 会議開催

①12月23日に公開シンポジウム「着床前受精卵遺伝子スクリーニング (PGS) を考える」を開催した。(来場者数：計211名)

**苛原稔委員長**「12月23日のPGSを考える公開シンポジウムでは200名強の出席者で無事終わった。貴重な意見聴取ができた。」

②1月14日に「平成25年度第5回着床前診断に関する審査小委員会」を開催した。

③1月30日に「平成25年度第1回着床前診断ワーキンググループ委員会」を開催する予定である。

④2月4日に「平成25年度第5回倫理委員会」を開催する予定である。

(5) 厚生労働省から検討依頼のあった「再生医療等安全性確保法の適用となる再生医療等」について  
**苛原稔委員長**「適用対象から除くべき医療技術について、3月末までに倫理委員会で考え方をまとめたい。」

## 9) 教育 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

1月24日	Exchange Program 打ち合わせ会	学会事務局会議室
2月21日	教育・若手育成合同委員会	JP タワーホール
	用語委員会	
	試験問題作成委員会	

(2) 書籍頒布状況

電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用)：1月7日現在

必修知識 2013 単体	159
用語集単体	45
必修知識 2013+用語集	148
合計	352

書籍版：1月7日現在

	入金済み (冊)	校費等後払い(冊)
産婦人科研修の必修知識 2013	1,536	22
用語集・用語解説集改訂第3版	2,037	24
若手のための産婦人科プラクティス	2,219	6

(3) 日本医学会を通して WHO 国際統計分類協力センターから、ICD-10 の一部改正の適用についての意見提出依頼があり、水沼英樹先生から回答した。〔資料：教育1〕

(4) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部奨学金について

26年度給付開始者の募集を行い22大学25名の応募があった。2大学から複数名(2名と3名)の

推薦があったので、2大学とも推薦順位2位まで、また、1名推薦の大学については全員を給付対象とし24名を選考した。

八重樫伸生理事「専門医試験の問題集・解説集として、産婦人科の必修知識補遺版を出したい。若手の専門医20名程度にお願いして作成しているところである。本の名前は『専門医筆記試験に向けた例題と解説集 産婦人科の必修知識2013補遺』としたい。また用語集・用語解説集の編集については、各サブスペシャリティ学会から委員を出していただき、片渕秀隆委員長、久具宏司副委員長の下で、来月からスタートする予定である。」

#### 10) 地方連絡委員会 (平松祐司副理事長)

各地方連絡委員にフィリピン台風義捐金募集の依頼を行った。

### III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

#### 1) 広報委員会 (加藤聖子委員長)

##### (1) 会議開催

1月16日に第3回広報委員会を開催した。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ホームページについて

①アクセス状況について [資料：広報2]

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

(5) Newsletter 利用アンケート集計結果について [資料：広報4]

加藤聖子委員長「Newsletter は比較的認知されているようだが、一斉配信メールなどで周知徹底することを考えたい。」

(6) Anetis 冬号について [資料：広報無番]

#### 2) 未来ビジョン委員会 (平松祐司委員長)

##### (1) 会議開催について

1月17日に第6回未来ビジョン委員会を開催した。

#### 3) 震災対策・復興委員会 (岩下光利委員長)

(1) 福島県医師派遣に協力いただいた先生方へのアンケートを実施した (1月9日締切)。

#### 4) 診療ガイドライン運営委員会 (岩下光利学会側調整役)

##### (1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」頒布状況について  
1月7日現在、入金済15,751冊、後払希望18冊。

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長)

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について  
1月7日現在、入金済 11,937 冊、後払希望 21 冊。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長)

#### 5) コンプライアンス委員会 (工藤美樹委員長)

(1) 日本医学会から、2月28日に開催される日本医学会COI マネジメント研修セミナーの案内があり、  
工藤美樹委員長、阪埜浩司副委員長が出席する。[資料：コンプライアンス 1]

#### 6) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 拡大医療改革委員会の開催

1月26日(日)に平成25年度「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革 公開フォーラム」  
を開催する。議事次第を本会ホームページに掲載したい。[資料：医療改革 1]

#### 7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (片渕秀隆委員長)

(1) 会議開催

2月20日 15:00~17:00、東京国際フォーラム G603 にて第3回男女共同参画・女性の健康週間委  
員会を開催の予定である。

(2) 女性の健康週間 2014 について

① 1月17日 18:00-20:00、ステーションコンファレンス東京 602CD にて女性の健康週間 2014 プレ  
スセミナーを開催の予定である。

② 2月25日に日本経済新聞東京本社版夕刊に女性の健康週間に関する広告ページを掲載予定である。

③ 3月5日、6日にステーションコンファレンス東京サピアホールにて日経丸の内キャリア塾女性  
の健康週間特別セミナーを開催の予定である。[男女共同 1]

(3) 第66回日本産科婦人科学会学術講演会にて、理事長推薦企画「ギネジヨの底力、ギネメンの胆力」  
を開催の予定である。(4月19日 15:00-17:00 東京国際フォーラムホール B5)

(4) 地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同 2]

片渕秀隆委員長 「女性の健康週間 2014 を担当してきた企業は、仕事が遅いなどの問題点があり、先生  
方からの意見が特になくであれば、変更を含めて検討したい。」

小西郁生理事長 「同社は10年近く本件を担当しており、検討をお願いしたい。」

#### 8) 若手育成委員会 (齋藤滋委員長)

(1) 会議開催

2月14日	スプリング・フォーラム打ち合わせ 会	学会事務局会議室
-------	-----------------------	----------

## (2) 産婦人科サマースクール [資料：若手育成1]

第8回産婦人科サマースクールをお手伝いいただく若手委員を公募したところ、40名の応募があり、全員を委員として依頼した。

第1回委員会を学術講演会会期中に行う予定である。

## (3) 産婦人科スプリング・フォーラム

第4回産婦人科スプリング・フォーラム参加希望は53名である。

## 9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長)

(1) 増崎英明先生より申請のあった研究課題「産科危機的出血に対するエプタコグ アルファ (遺伝子組み換え) の仕様実態調査」についての臨床研究審査報告書を提出した。 [資料：臨床審査1]

(2) 増崎英明先生より申請のあった研究課題「産科大量出血に対するフィブリノゲン濃縮製剤の使用実態調査」についての臨床研究審査報告書を提出した。 [資料：臨床審査2]

## 10) 医療安全推進委員会 (竹田省委員長) 特になし

## 11) 公益事業推進委員会 (竹下俊行委員長) 特になし

## 12) 情報管理委員会 (久保田俊郎委員長)

(1) 竹下俊行会員より日本産科婦人科学会登録データベース使用申請があった「厚生科学研究『生殖補助医療により出生した児の長期予後と技術の標準化に関する研究』の分担研究『周産期・新生児データベースとの連携』において、周産期登録データから不妊治療 (対外受精) による妊娠分娩転帰の解析し、同時に生殖補助医療データベースとの照合が可能であるかを検討する」について審査を行い、1月6日に審査結果 (承認) を通知した。 [資料：情報管理1]

(2) 三上幹男会員より日本産科婦人科学会登録データベース使用申請があった「がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究—診療動向と治療成績の変化—の遂行のため」について審査を行い、1月8日に審査結果 (承認) を通知した。 [資料：情報管理2]

## 13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会 (井坂恵一委員長)

## (1) 会議開催

2月21日に第6回婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会を開催の予定である。

## IV. 協議事項

## 協議1:

総務：予防接種推進専門協議会より、予防接種の定期接種化に関する要望書を厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会に提出するにあたり、本会の意見を求めてきた。 [資料：協議1]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 2 :

総務：日本癌治療学会から、がん診療ガイドライン委員会子宮頸がん、子宮体がん及び卵巣がんの担当委員、協力委員及び評価委員の推薦依頼を受領した。日本婦人科腫瘍学会とも協議の結果、資料に記載された先生方を推薦したい。[資料：協議2]

片瀧秀隆委員長「今回から、本会と日本婦人科腫瘍学会の両学会で協議して委員を推薦するようにお願いした。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 3 :

総務：日本整形外科学会から、先天性股関節脱臼に対する「妊産婦への脱臼予防パンフレット」普及のお願いを受領した。同学会は全国の妊産婦に行きわたるように希望している。本会ホームページに掲載し、必要な産科施設で印刷して褥婦に渡していただく方向で進めたい。

[資料:協議3]

木村正理事「基本的には賛成する。ただ、あくまでスクリーニングなので親へのパンフレットで『検診ですべての先天性股関節脱臼を診断することはできない』ということの明示と推奨項目の②～④についておかしいと感じたら整形外科へ、という文面を入れてもよいのではないかと感じた。少なくとも本会員にはこれらの推奨項目を守った場合の診断に対する sensitivity, specificity, false positive rate, false negative rate に関する情報を提供していただくよう依頼してほしいと思う。」木村正理事の指摘を反映させたうえで本会ホームページに掲載することについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 4 :

総務：厚生労働省健康局結核感染症課から、風しんに関する特定感染症指針案についての意見を求められたので、関係の先生方と相談のうえ、本会の考えを回答した。[資料:協議4-1]

さらに追加で指針案の追記内容についての検討依頼を受領した。風しん根絶に関しては、学会として厚生労働省を動かしていく戦略を考える必要がある。

[資料:協議4-2、4-3、4-4]

阪埜浩司副幹事長「本件に関して本会は重要な役割を担うべきべきと考える。」

佐川典正議長「方針には賛成する。追加資料4-4の『医療等の提供』に関する追記の文章だが、小児科は学会と医会の記載があるのに産婦人科は学会だけの記載となっている。先天性風疹症候群の児に接する機会は医会の先生の方が多と思うので、日本産婦人科医会の文言を入れた方がよい。」

水上尚典委員長「厚生労働省は風しんを早期に撲滅させるという意思を明確に示していない。かつての麻疹対策と同様に、いつまでに撲滅するか、を示すかがポイントである。」

岩下光利副理事長「1月22日の厚生科学審議会小委員会での経過を見てアクションを起こす、ということでしょうか。」

吉川裕之理事「不妊症治療をやる産婦人科医は、妊婦の風しんの抗体チェックを行うなど、何か対応できることは行った方がよい。」

小西郁生理事長「指針案追記内容についての回答として、日本産婦人科医会の名前を入れることと、麻疹同様の対策を具体的に書いてほしいことを入れたい。」

落合和徳監事「1月22日の厚生科学審議会小委員会が公開であるのならば、水上尚典先生に傍聴いただ

くのがよい。」

厚生労働省の検討している風しん指針案への要望について、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 5 :

渉外：[FIGO 関係]7月4日に開催予定のFIGO/JSOG Educational Seminar に、FIGO 側より2名、日本側より3名の発表をお願いしたい。日本側の講演のうち、一題はJICAから母子保健支援事業の紹介をお願いする予定である。残り二題のうち、一題は特定の企業になってしまうが細胞診自動診断装置について発表いただいでよいか。さらに一題は何か日本の特徴的な産婦人科医療（広汎子宮全摘などの手術や、生殖医療での凍結胚移植や低刺激採卵など）がよいかなど、ご意見をいただきたい。

**落合和徳監事**「企業の宣伝とならない配慮が求められると思う。医療については日産婦学会が把握している生殖補助医療、周産期医療、腫瘍医療について日本の統計から現在の問題点と今後の国際的な医療の中でのJSOGの方向性についてお話しただけるとよいのではないだろうか。」

**嘉村敏治監事**「JICAは問題ないと思う。FIGOにとって細胞自動診断装置のように新しい機器などの講演に興味があればよいと思う。この装置を使っている本会会員に講演をお願いするということになるのだろうか。あと教育的な見地からであれば最先端というよりも、ガイドラインのCQのいくつかを解説する講演でもよいかと思う。」

**阪埜浩司副幹事長**「FIGOセミナーにふさわしい内容をトピックにするべきと思う。誘致戦略でもあるので、学術的かつその点の配慮が必要ではないか。」

**青木大輔理事**「内容はお任せする。特定の企業に関連した発表でも、臨床研究（ヒトの試料を使用等）のデータ解析が含まれていれば、機器開発パートナーとしての産婦人科医がいるはずなので、その方からの発表であって、しかもCOIがコントロールされていれば問題ないと思う。ただし、自動診断装置はすでに市販され実用化されている。それらより優れている点をアピールできるかどうかについて考慮した方がいいと思う。」

**苛原稔理事**「木村正理事の考えで良いのではないか。生殖医療なら凍結胚移植と多胎の減少が他の国からの注目点である。」

**内田聡子副議長**「企業の広告にならないような工夫が必要だと思う。SETによる多胎の減少は日本に特徴的であると思う。」

**平松祐司副理事長**「JICAはOKと思う。他のものとして、世界に冠たる周産期医療の成績、それを支える医療体制、ガイドラインの何か、無過失補償制度などはどうか。」

**佐川典正議長**「FIGOの誘致を視野においたセミナーという位置付けなので、FIGOに参加するaudienceを考慮して、母子保健(JICA)は周産期領域と考えると、残りの2題は、婦人科領域、生殖医学領域などからテーマを選択するのがよいのではないか。」

**南佐和子特任理事**「無過失補償制度はインパクトがあると思う。」

**峯岸敬理事**「凍結胚移植がよいと思う。」

いただいた意見を参考に、理事長、副理事長と相談して演題を決定することについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 6 :

倫理委員会：「着床前診断ワーキンググループ」に、新たに下記の3名の委員を追加し、生化学的妊娠について検討したい。

加藤 恵一先生（加藤レディースクリニック）、杉 俊隆先生（杉ウイメンズクリニック）、  
中塚 幹也先生（岡山大学医学部保健学科 生殖医学）

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 7 :

倫理委員会：本会のPGSに対する方針を議論するため、倫理委員会の中に「PGSに関する小委員会」を設置したい。[資料:協議7]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 8 :

未来ビジョン委員会： 神奈川県立こども医療センターより Plus One 産婦人科セミナーの支援申請があった。連合地方部会への支援は1件としているが、これは関東連合からの2件目の依頼であり、本件の諾否をお諮りしたい。[資料:協議8]

**落合和徳監事**「連合地方部会への支援は1件としているという連絡は各連合地方部会に周知されていたのか。周知されているにもかかわらずということであれば、これは否ではないか。」

**吉川史隆理事**「各連合地方部会に1件ずつとアナウンスしている。関東は会員が多いので、次年度以降に話し合うのが良いと思う。今回は無理ではないか。」

**木村正理事**「最初は連合地方部会あたり1件と決めている。もちろん、人数割りで考えると関東の2件はあり得るが、近畿ではALSOは多人数向けではないことを考慮して、ALSOに頼まず、あえて多人数対象の異なるセミナー形式を考えた。まず他地域での支援依頼を見て、もしも申請しない地域があれば承認、全部が行う、ということであればいったん保留、次年度などにすることを考えるほうがよいと思う。」

**久保田俊郎委員長**「連合地方部会への支援は1件ということであれば、この申請は保留し、次年度への持ち越しを検討すべきと考える。」

**青木大輔理事**「Plus One 産婦人科セミナー支援の今年度の目標は達成できているのだろうか。年度末も近いことから目標に達成できていなければ諾。すでに目標を超える支援をしていれば否ではないか。」

**種部恭子特任理事**「連合地方部会への支援が1件と決められていることが事前に知らされているのであれば、本年度はお断りし、次年度の事業にしていかがいか。」

**苛原稔理事**「確かに関東は会員が多いので考慮する必要はあるが、他の地域で希望があっても1件のみとして断っているのでは、複数にするのは次年度にされたらいかか。」

**藤井知行理事**「関東連合代表として発言すると、関東連合としては今年6月の関東連合学会の際のセミナーをすでに企画、応募しており、神奈川県立こども医療センターの件は、私どもとは独立して企画されたものである。同センターから私どもに相談があった際、関東連合としては日産婦本会の同意が得られればよいのではないかと伝えた。したがって関東連合として企画、推薦しているものではない。同センターの先生も、日産婦本会から認められるのならお願いしたいということであった。

本会理事としての意見を述べると、本会が Plus One セミナーを推進しているということを考えると、このように自発的に企画、開催したいという方に対しては、支援する方向で考えたほうがよいと考える。数が多すぎたら、制限を厳密にしなければならないと思うが、現在、少しでも会員数を

増やしたいという状況なので、予算増がそれほど多くなければ、承認する方向で考えたいと思う。」  
**内田聡子副議長**「産婦人科医不足が著しい地方に、より厚い支援を行っていただきたい。関東に2件目の支援を行うより、経済的にも人的にも広く地方にまで支援を行っていただきたい。」

**佐川典正議長**「Plus One project 推進のために、各連合地方部会単位での活動を支援するための予算なので、原則として各都道府県単位や施設単位のセミナーの企画は支援できないと思う。神奈川以外の地方でも県単位での企画をしているところは多数あると思う。そのようなところと不公平感が生じると思う。」

**平松祐司委員長**「2つ目をどうしても開催したい理由の説明がないため、未来ビジョン委員会としては、原則通り各連合地方部会1回としたい。関東連合にどちらの優先順位を聞いて決めたい。」  
原則通り各連合地方部会1回とすることにつき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 9 :

診療ガイドライン運営委員会:ガイドライン産科編電子版については第3回理事会で承認されたが、  
巻末索引のCQ番号から当該頁へのリンクを付けると利便性が高まるため、約16万円の予算を追加したい。[資料:協議9]

**多賀谷光幹事**「使い勝手のよいものができた方が良くと思う。承認する。」

**落合和徳監事**「利便性を高めることは読者の立場からも必要なことと思う。約16万円の予算を追加を承認する。」

**阪埜浩司副幹事長**「全く問題ない。むしろ、ネットからガイドラインを注文できる体制を作っていただきたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 10 :

婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会:「婦人科良性疾患に対するロボット支援下手術に関する指針」および「ロボット支援下婦人科良性疾患手術実施施設登録申請書」を作成した。承認いただければこれを会員に周知したい。[資料:協議10、10-1]

**落合和徳監事**「指針の検討手順に瑕疵はないか調べ、特に問題なければ承認する。」

**阪埜浩司副幹事長**「早急な周知を要する。一刻も早く、産科婦人科学会の姿勢を表明してほしい。」

**吉川史隆理事**「4PC)手術チームの構成 3行目『医師は既定のトレーニングコースを修了していること。』既定のトレーニングコースとは業者の実施しているトレーニングを指していると思われる。執刀者(コンソール側)と第1助手は既定のトレーニングは必要かもしれないが、第2助手にまで要求するのは厳しすぎるのではないか。」

**井坂恵一委員長**「2人だけでもできることは確かなので、表現を検討したい。」

**水沼英樹委員長**「ロボット支援下手術と内視鏡手術は似て非なる物である。カメラやアームのトラカールの挿入は内視鏡操作と同じとなるが、それ以降の操作手技は解剖学をどれだけ熟知しているにかかってくる。施設基準に婦人科良性疾患に対するロボット支援下手術は、日本産科婦人科内視鏡技術認定医の指導のもとに行う事が望ましいとあるが、この文言は不要ではないか。なぜ良性疾患だけなのか。次の頁の施行基準の中に、新規導入に当たっては云々の文言だけで充分であると思う。」

藤井知行理事「『望ましい』という表現の拘束力はどうか。提言という意味でよいか。」

小西郁生理事長「本業務は、発展と安全の両方向からの視点が必要である。現時点では『望ましい』という表現を使わざるをえない。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 協議 11 :

渉外：カンボジア産科婦人科学会支援に関して、資金面でのサポートを受けるため、JICA 草の根技術協力事業へ応募したい。[資料:協議 11]

木村正理事「国際医療センターと相談しつつ、本会が中心となって応募したい。これは国の資金であるので、カンボジアでの経理について監査役を雇う必要があることもご了承いただきたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 協議 12 :

総務：大日本印刷株式会社から、「反社会的勢力排除に関する『覚書』締結のお願い」を受領した。同社は東証一部上場企業であり、覚書締結には問題はないと考える。[資料:協議 12]

また他の取引先との同種の覚書の締結に関しては、先方から依頼がある場合は原則応じるが、既存取引先に対しては本会側から改めて覚書の締結を求めず、新規取引先に対しては業務契約を締結する際に覚書も併せて締結することとしたい。

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 協議 13 :

学術：第 68 回学術集会長の井坂恵一先生から、学術集会会場変更のお願いを受領した。東京国際フォーラムで予定していた学術集会を帝国ホテルで開催したいとの提案である。[資料:協議 13]

井坂恵一第 68 回学術集会長「帝国ホテルで開催すると、会場と宿泊場所が一致して海外の先生方の利便性が高くなる一方、費用面でも大きくは増加しないようなので、今回は新しい会場でやってみてはどうか、と考えて提案させていただいた。」

峯岸敬理事「学術集会の会場は、東京では東京国際フォーラムと総会で決定されており、本提案については、まず常務理事会の場で、誰がどのように検討するかを協議、決定していただきたい。東京の場合は候補となる会場が複数ある可能性もあるが、そこをどう考えるのか、についても議論になる。」

平松祐司副理事長「東京の会場設定はひとつであるのには理由があるのか。」

吉川裕之理事「もともとは都市というより会場で固定されており、集会長と会場はセットとなっていた。本件は、選挙により集会長が選ばれていることと、指定 8 会場でないということが過去に例のないところである。学術集会長は会場とセットで総会で承認されていることを考えると、会場変更は理事会、総会で了解を得る必要はある。その前に学術集会長の選考まで戻して考えなくてよいか、費用面での問題はないか、などの検討も必要となる。なお新会場は学術講演会運営要綱を満たさない可能性が高いが、これは理事会が承認すればクリアできる。」

嘉村敏治監事「学術集会は学会の事業なので、予算をきちんと示していただく必要がある。」

小西郁生理事長「学術委員会にて、学術集会会場設定の考え方整理および提案会場の審査や収支確認などを検討いただき、次回理事会に諮っていただきたい。」

## 協議 14 :

医療安全推進委員会：日本医療安全調査機構より、「診療行為に関連した死亡の調査分析事業」に係る平成 26 年度負担金の拠出依頼を受領した。昨年度同額の 172 万円の拠出を応諾したい。[資料:協議 14]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 15 :

医療改革委員会：第 7 回「大学病院産婦人科勤務医の待遇改善策の現況に関するアンケート調査」の集計結果がまとまった。調査結果報告書及び回答詳細については、ご協力いただいた各大学教授にお送りしたい。またこれらを一般ホームページに掲載してよいか、その場合、大学名等は匿名にすべきかについて、お諮りしたい。[資料:協議 15-1、15-2]

小西郁生理事長「従来通り、大学名を匿名にしてホームページに掲載いただきたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 16 :

総務：女性ヘルスケア委員会の中に、「低用量経口避妊薬、低用量エストロゲン・プロゲステロゲン配合剤のガイドライン作成小委員会」を設置したい。[資料:協議 16]

さらに、OC、LEP のリスク・ベネフィット、死亡症例のできるだけ正確な情報、適切な使用方法などを会員に伝える必要があるため、第 66 回学術集会で女性ヘルスケア委員会から、このテーマについて会員に情報提供するセッションを開催したい。

吉川裕之第 66 回学術集会長「4 月 20 日午後に女性ヘルスケア委員会企画講演をセットした。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 協議 17 :

倫理委員会：第 3 回理事会でも協議された、「各種見解における『婚姻』に関する記載とその変更案」について、久具宏司先生および平岩敬一弁護士からの意見をいただいた。[資料:協議 17]

苛原稔委員長「本会の見解における『婚姻』という表現については、社会情勢を鑑みて、外してもよいのではないかと考えた。本会のすべての会告を見直して整合性のある形で整理したい。『体外受精・胚移植に関する見解』、『ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する見解』については『婚姻』という表現を外す方向で倫理委員会で検討を進めたい。」

吉村泰典監事「平成 17 年頃、卵子提供の問題が起こった時に、本会の『婚姻しており』との見解は大きな問題となった。その後事実婚が一般化するなかで体外受精はできないのかという会員からの意見もあり、理事会確認事項を作成した。本会の意図は原則に硬直的に対応するのではなく、法的に不利益を被る婚外子を本会として推奨することはできないが、本人たちが結婚していると言えば暗黙のうちに認めるという姿勢であったかと思う。婚外子による法的不利益が全く無くなった訳ではないが、相続面の差別は解消されることで本会としても『婚姻しており』を外して分かりやすい会告にしても

良いのではないかと。会員の方々から広く意見を聞いて進めて行けばよいと思う。」

**小西郁生理事長**「引き続き、会告について倫理委員会で整合性のある形に整理していただいたうえで、会員に意見を聞くこととしたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 協議 18 :

教育：用語集・用語解説集編集委員について、関連4学会から推薦された編集委員および、取りまとめ幹事役委員として各分野から1名の委員を委嘱したい。[資料：協議18]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 協議 19 :

未来ビジョン委員会：女性の健康手帳について [資料：協議19]

**平松祐司委員長**「交渉している出版社からは、編集協力費300万円と初版時2,000部の買い取りを学会にお願いしたいとの反応であった。未来ビジョン委員会での議論では、『知ってほしいことを全員に伝えたい』という方針の下では電子媒体と紙媒体両方が必要ではないか、広告を取って無料配布すること、なども含めて検討することになった。」

**吉川裕之理事**「ある出版社が『妊婦手帳アプリ』を出しているらしい。本件と対象範囲が似ている既発行の制作物については調べてみると良いのではないかと。」

**藤井知行理事**「売れないということは誰も見ないということになる。売れる、ということをもまずは重視すべきではないか。」

**小西郁生理事長**「基本的には学会が配布する方向ではないかと思う。有料だと買ってもらいが必要があり、アプリを作ってもアクセスされないと意味がないので、広告を取って無料にしてプロを入れてしっかりしたものを学会が作成していく、という意見が未来ビジョン委員会でも多かったように思う。」

今後も検討を進めていくことにつき特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 協議 20 :

未来ビジョン委員会：新しいプロモーションサイトについて [資料：協議20-1、20-2、20-3]

**平松祐司委員長**「前回理事会後、本事業について一旦白紙に戻して検討したが、本学会の現状を踏まえると新しいプロモーションサイトはやはり必要であること、企画力や情熱、費用を勘案すると今まで一緒に検討してきた3名の担当者に制作を依頼することが望ましいことが再確認された。具体的には、テスト版を作成して会員の評価をいただくステップを踏む、当初は研修医や学会員をメインユーザーとすることとし、サマースクールまでにテスト版を公開できるようにすることとした。コンテンツとしては、数字と絵で見る日本と世界、産婦人科医の紹介ドキュメントを考えている。費用としてはテスト版作成に1800万円程かかるが、臨時総会での承認を受けてスタートすることとしたい。」

**八重樫伸生理事長**「テスト版のあと、次のステップに進むかどうかを決定する際の判断基準はどう考えているか。」

**平松祐司委員長**「アンケートやサイトへのアクセス数などや、他のサイトなどとの比較を示したりして、先生方が評価しやすいものをお示ししたい。また会員と非会員の反応にも分けて把握していきたい。」

**久保田俊郎委員長**「本件には賛成である。自分が担当している女性アスリートのヘルスケア問題は社会的な関心が強く、委員会活動と並行してこのサイトでも取り上げて行けば、女性のヘルスケアに本会が貢献していることを示すことになると思う。」

**藤井知行理事**「企画および制作には、本会の先生方の関与度合いを極力高めてほしい。撮影現場などにもできる限り参加するようにしてほしい。」

**落合和徳監事**「このプロジェクトは、産婦人科のイメージが悪い、という前提でスタートしているが、実際に学生、医者、一般の人たちがどう考えているか、というベースラインを把握しておかないと、プロジェクトの評価、費用対効果の計測ができないのではないかと。事業をスタートする前にはマーケットリサーチが必要ではないかと思う。」

**加藤聖子理事**「日経メディカル最新号に、医師のイメージ像が載っているが、そのなかでの産婦人科のイメージは悪い。それを払拭するためにも、ブランディングに取り組むことは必要かと思った。」

**平松祐司委員長**「一般の方を含めたリサーチについては対応を検討したい。また今回のプロジェクトは昨年夏から始まっているが、昨年分の費用 359 万円については、今月中に支払うこととしたい。」  
新プロモーションサイトの取り組み方針および昨年分の費用支払いにつき特に異議はなく、全会一致で承認された。

## VI. 事業計画会議

1月21日から29日の間、各部署・委員会が作成した、平成26年度事業計画についての事業計画会議を通信にて開催した。これについて特に意見はなかった。

以上